



自主保育で過ごした 3年間② (うまエッセイ 22)

自主保育では、保育士の先生を中心に、保護者も一緒になって保育に取り組みます。会計や広報といった係の活動をするだけでなく、付き添いとして日々の保育の現場にも入りました。子どもたちと一緒にあちこちの公園に出かけ、いろいろな遊びをしました。年少の頃は、娘がべったりと他の子どもたちと遊ぶ時間が少なかったのですが、大きくなるにつれ離れられるようになり、他の子どもたちとのかかわりも楽しいものでした。一人っ子の娘だけでなく、たくさんの子どもの様々な様子を知ること、子育てに対する視野も広がりました。また、保育で大切にすることを保育士の先生や保護者と話し合いつつ付き添いに入ったことは、馬の学校の活動にも生かされています。

保育終了後も公園で遊ぶ子どもたちを待つ傍ら、保護者同士でたくさんのお話をしました。たわいのないことから、「こんな時どうしてる？」というような相談まで。暑い日も寒い日も立ち話して、いろいろな見方が得られ、心強い仲間がいたことで子育てを楽しむことができたのだと思います。

素敵なママ友に恵まれ、このつながりをもっと生かしたいと思い、「ももやまコネクションズ」という組織も立ち上げました。のんびりおしゃべりできる時間を設けたり、それぞれが持つ特技を生かして講座を開いたりしました。お菓子作りが得意な方が講師となってシフォンケーキを作ったり、フラワーアレンジメントが得意な方が講師となって蹄鉄リースを作ったり。ママ友という枠を超えてつながれる機会を設けることで、お互いの世界も広がるのではと感じました。

そして、いよいよ卒室が近づき、毎日の立ち話もなくなるのかと思うと、本当に寂しい思いでいっぱいになりました。ほとんど

知り合いがいらない小学校区、いったい誰と話せばいいのかと(笑) そんな時、保育士の先生と卒室した子どもたちのサポートができたらいいいねという話をするようになり、学習サポートと遊びの機会を設ける「ももやま小学生」を立ち上げることになりました。



オススめの本

『馬のこころ』

ジャネット・L・ジョーンズ(著), 尼丁千津子(翻訳)



分厚い
本だね。



馬がどのように感じ・考え・学び・実行するかについて、脳科学に基づいて説明された本です。「被食動物」として、逃げて生き延びるために脳が進化してきたことを理解して馬とかかわることで、最適なコミュニケーションが取れるようになります。馬には前頭葉がなく、知覚すると即行動するという、またカテゴライズできないために、例えば同じホースでも地面に置いている場合と壁にかけている場合では違うものと認識するという、などを知っていれば、馬の行動も「なんで?」ではなく「なるほど」と受け取れます。私にとっては、とても興味深い本でした。

編集後記

この夏は、ミルキーフレンズ&アフタースクール参加の子どもたちを対象にしたウマキャンプも実施しました。1泊2日、コンテナハウスに寝袋でお泊り。各自で目標をたて(コースを歩く、速歩に挑戦するなど)それに向かって練習し、たくさん笑顔が見られました。夕食はカレーを作ったり、温泉に行ったり、花火をしたり、馬以外のお楽しみも盛りだくさん。かつて小須田牧場で行っていたウマキャンプを懐かしく思い出し、馬の学校の原点とも言えるキャンププログラムを、続けていきたいと思いました。

娘の夏休みは1か月ほどでしたが、毎日のようにミルキーたちの世話やプログラムの手伝いをしてくれました。そんな合間に、夏祭りに参加したり、お友だちと甲府に行ったり、一人で祖母の家に泊まりに行ったり。成長ぶりは目覚ましく、頼りになる存在です。

八ヶ岳南麓 URAYAMA が取材を受け、八ヶ岳デイズ 9月号(東京ニュース通信社・9月28日発売)に掲載されます。馬のボロ(うんち)を使った循環型農業ということで、馬の学校 MilkyWay も紹介されています。何と表紙の写真も URAYAMA! ぜひご覧ください。

(峯崎友香理)

馬の学校
MILKY WAY

通信

発行 馬の学校 Milky Way

〒408-0002 山梨県北杜市高根町村山北割 3107 八ヶ岳南麓 URAYAMA

TEL/FAX: 0551-30-4397 E-mail: umanogakkou@yahoo.ne.jp

ホームページ: <http://www.horseschool.org>

第一種動物取扱業(展示)登録番号: 第 2241008 号 動物取扱責任者: 中井(峯崎)友香理